

# ある日の育児日記から

(96)

佐藤 和代



「何の夢だったの？」  
 まだまだ幼いところあるじゃない。

ある日の夜中。私の隣で眠っていた有が急に泣き出しました。「どうしたの？」声をかけると、布団の中で抱きついてきて、泣きながら言うのです。「お母さん、ぼくが死んじゃったらどうする？」私は有をぎゅっと抱いて、「お母さん、泣いちやうよ」と答えました。しがみついて泣き続ける有。何か夢でも見たな、それにしてもこんなふうには抱きついてくるなんて久しぶり。うふふ、ちかごろ生意気になったと思っていたのに、

なんてにやにやしていた私ですが、はっと我に返りました。海で、おぼれる？ それってもしかして……「有くん、おしっこ、いきたいんじゃないの？」有はようやく顔をおこして、「うん、出そう」

「早くトイレ行ってきなさい！」やれやれ、布団ぬらされずにすんでよかった。  
 「あのね、海で、おぼれたの。ぼくもう、海行かない！」あいかわらず私にだきついたままの有。  
 泣き声で目をさました敬が、見透かしたようにひとこと言いました。  
 「有ってかわいい！と思ってるんだろー」。そりゃ、母親の役得よ。これをかわいいと思わずして何とする。

